

学園の今を伝える立正大学学園新聞



RISSHO
UNIVERSITY

NEWS

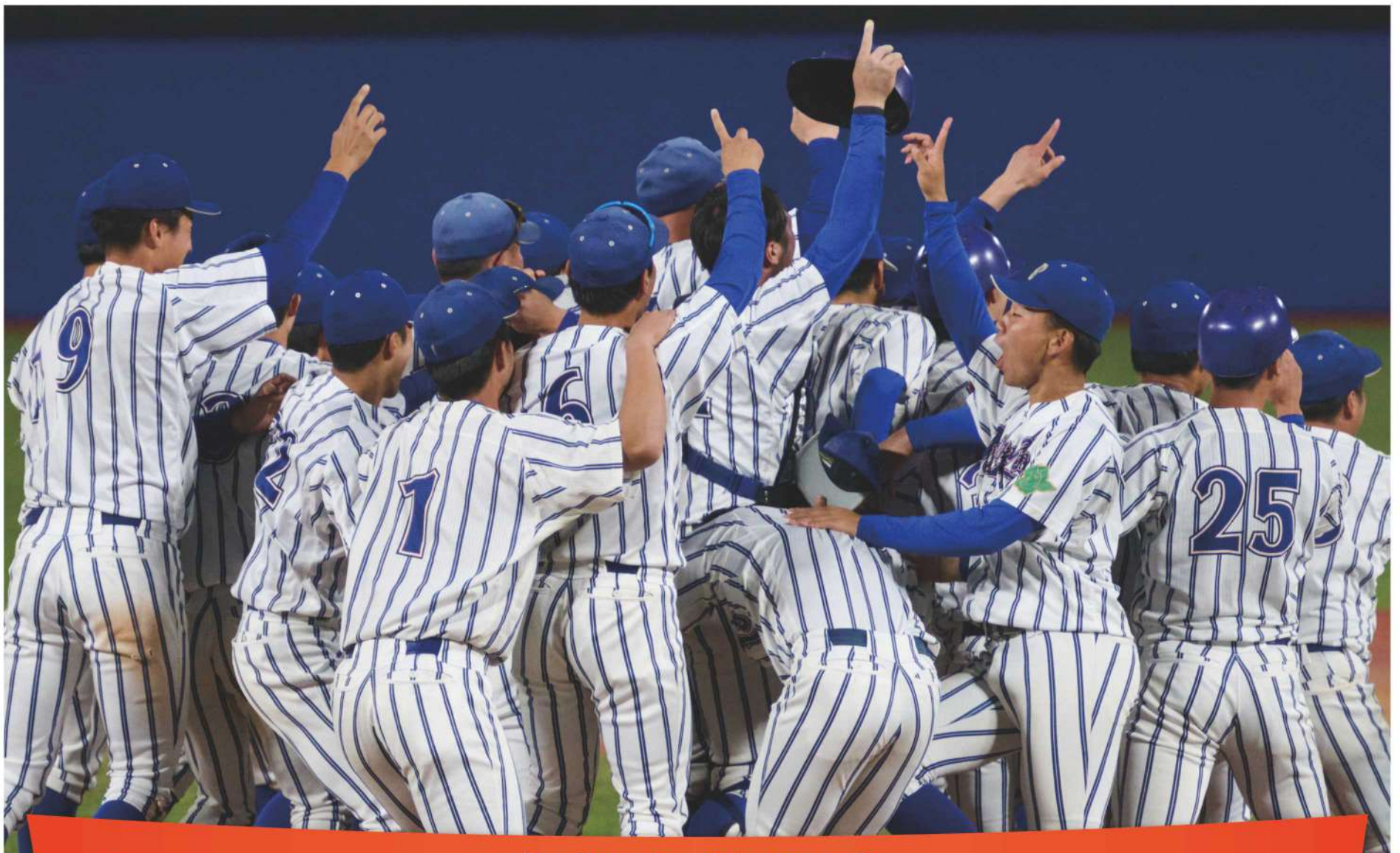
P2・3 夏の立正
活動レポート
P5 輝く人

P6 学部あれこれ
P11 東都大学野球1部復帰の野球部など
強化クラブ等情報

Vol. 163
Winter 2026



謹んで新春をお祝い申し上げます



祝 東都大学野球
2部リーグ優勝&1部リーグ復帰!

立正大学学園

品川キャンパス 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 / Tel.03-3492-5250
熊谷キャンパス 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700 / Tel.048-536-6010

Website

学園新聞Web版はこちらから

立正大学マガジン



夏の立正< 活動レポート2025

夏期休業中、立正大学では学部や学年の枠を越え、学生たちが多彩な学びと交流に取り組みました。国内外での研修、ゼミによる地域連携活動、各部署や課外活動団体の企画するイベントなど、「夏の立正」の様子を紹介します。

①開催日/期間 ②場所 ③参加者 ④目的 ⑤活動内容

社会福祉学部 子育て支援イベント「ハグくま広場」

- ①2025年7月26日
- ②熊谷キャンパス9号館および9号館前広場
- ③就学前の子どもとその保護者、学生、教職員
- ④学生が主体的に子どもと関わり、保育者・教育者としての資質を高めるとともに、地域貢献を果たす。
- ⑤子育て支援センターベアリスと協働で子育て支援イベントを企画。多目的ホールではサーキットコースやリズム体操、パラバルーンを実施。屋外では水鉄砲・さかなつりなどを企画し、子どもたちが自由に体を動かして遊べる空間を提供。学生がFMクマガヤで広報を行うなど、地域に開かれた子育て応援イベントとして実施された。



仏教学部 国内仏教文化研修

- ①2025年9月11日～13日
- ②大阪府(堺市・太子町)、奈良県(明日香村・奈良市)
- ③仏教学部・文学部の学部生、大学院生、教員
- ④「日本文化の幕開けと法華仏教の転変を泉州・大和に追う」をテーマに、日本の宗教と文化の歴史を体験的に学ぶ。
- ⑤・1日目: 仁徳天皇陵古墳、堺市役所展望台、堺市博物館、妙國寺、妙法寺で研修。
・2日目: 太子町の叡福寺で聖徳太子陵墓と伝日蓮聖人參籠跡を、明日香村の飛鳥寺で「飛鳥大仏」と蘇我入鹿首塚を、飛鳥資料館で「須弥山石」「石人像」などを見学。
・3日目: 奈良市で唐招提寺の戒壇、東大寺の戒壇堂、法華寺を見学し、史蹟解説を聴講。



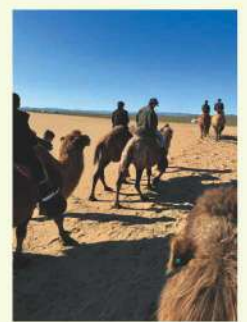
リーダー養成特別プログラム 「リーダーシップキャンプ」

- ①2025年9月1日～7日
- ②北海道上川郡東川町
- ③2～4年生の学生14名
- ④地方創生・国際的視野・社会経験をテーマに、主体的なリーダーシップを育成する。
- ⑤・東川町役場での実践研修
(経済振興課・子ども未来課・農業振興課など)
・良品計画顧問・金井氏、JA北海道中央会会長・樽井氏による講演
・デンマークのフォルケホイスコーレをモデルとしたCompathでの学び
・大雪山旭岳の自然散策、国際交流員・留学生との交流
・R-bodyによるコンディショニング体験、成果発表



仏教学部 海外仏教文化研修

- ①2025年9月15日～20日
- ②モンゴル国(カラコルム・ウランバートル)
- ③仏教学部・文学部・法学部の学部生、大学院生、教員、社会人オープン講座生
- ④海外(モンゴル)における仏教文化の歴史と現状を体験的に学ぶ。
- ⑤カラコルムではエルデニゾー寺やカラコルム博物館を視察。ウランバートルではチンギスハーン博物館、ガンダン寺、ボグドハーン宮殿博物館、日本人墓地などを訪問。モンゴル国立大学で学術および学生交流を実施。



令和7年度ウズベキスタン学術調査隊 現地調査・国際シンポジウム

- ①2025年9月5日～23日
- ②ウズベキスタン共和国
(タシケント・フェルガナ・テルメズ)
- ③教員6名(調査隊員)
- ④ウズベキスタン南部のダルヴェルジン・テベ仏教遺跡の発掘調査および国際学術交流の推進。
- ⑤・テルメズ市でダルヴェルジン・テベ仏教遺跡の3Dモデル構築と自然科学的年代測定を実施。
・タシケント国立東洋学大学と共催し、国際シンポジウム「Silk Road as a symbol of sustainable tourism」を開催。



同窓会主催 「学生農業体験 稲刈り」

- ①2025年9月21日
- ②千葉県君津市三直地区の田圃
- ③石井君津市長、北村学長、学生29名
- ④農業体験を通じ、自然との関わりや地域とのつながりを学ぶ。
- ⑤5月に田植えを行った田圃で稲刈りを実施。晴天のもと、地域の方々と協力しながら収穫を行った。



春華堂スタディツアー

- ①2025年9月10日～12日
- ②静岡県浜松市
- ③学生16名
- ④企業訪問や農業体験を通じて、地域産業と文化の現場を体感し、地方創生の実践的理解を深める。
- ⑤・1日目: スズキ株式会社や静岡放送株式会社などの企業を訪問。
・2日目: 有限会社春華堂やローランド株式会社などの訪問、栗の収穫体験。
・3日目: 成果発表を実施し、学びを共有。



経営学部 「戦略経営特講20」<北海道東川町実習>

- ①2025年9月22日～26日
- ②北海道上川郡東川町
- ③履修生14名
- ④東川町の人・文化・自然に触れ、地域に根ざした生き方・働き方を学ぶ。
- ⑤・1日目: 「森のMEISHI」制作と共同夕食作り。
・2日目: 「木と暮らしの工房」鳥羽山聡氏と対話。
・3日目: 大雪山旭岳の登山と地域事業者(お菓子喫茶みうら内山智之氏、編集者 畠田大詩氏)との交流。
・4日目: 学生によるマルシェ開催。
・5日目: リフレクションを(振り返り)実施。



令和7年度 立正大学・大学院9月学位授与式

- ①2025年9月26日
- ②品川キャンパス 石橋湛山記念講堂
- ③卒業生・修了生・教職員
- ④9月期卒業・修了者の門出を祝福し、学業の成果を称える。
- ⑤式典では学長式辞、学位記授与、代表挨拶などが行われた。



同窓会主催 新潟十日町市地域研究×SDGsプログラム

- ①2025年9月27日～29日
- ②新潟県十日町市
- ③学生31名
- ④学生支援の一環として、農業体験・田舎体験を通じた地域理解と交流を深める。
- ⑤・地球環境科学部卒業生で里山科学館学芸員の小林誠氏による講話「森の学校キョロロ」を聴講
・農作業体験や地域住民との交流を通じ、自然とともに生きる知恵を学んだ。



経済学部「小布施町での経済フィールドワーク」

- ①2025年9月29日～10月2日
- ②長野県小布施町
- ③経済学部2・3年生、教員
- ④長野県小布施町を訪れ、地域におけるブランド形成を考察する。
- ⑤「栗と北斎と花のまち」である長野県小布施町にて、学生たちは町長をはじめ、地元で暮らし働く方々にお話を伺い、インタビューを実施した。視察では、北斎館や岩松院などの名所に加え、栗菓子の老舗や酒造、ワイナリー、牧場、農園などモノづくりの現場を巡り、地域経済と観光の関係を体感した。学外フィールドワークを通じて、地域の在り方を多角的に考え、経済への理解を深める機会となった。



社会福祉学部 プチカフェ in サンシティ熊谷

- ①2025年10月10日(準備期間:2025年夏期休業中)
- ②熊谷市 サンシティ熊谷(有料老人ホーム)
- ③サンシティ熊谷の入居者、土屋ゼミ学生
- ④多世代交流を目的に、アートを通じて心のふれあいと豊かな時間を共有する。
- ⑤オランダのコミュニティカフェ「オーデンセハウス」の手法を参考に、水彩画を用いた交流を実施。穏やかな対話とともに作品を仕上げ、世代を超えた温かな時間を過ごした。



学生団体つむつむ 活動報告会「紡ぐ」

- ①2025年10月11日(2025年夏期休業中に実施したことも含めて報告会を実施)
- ②埼玉県男女共同参画推進センター With You さいたま
- ③学生団体つむつむ、他大学生、地域住民など 約60名
- ④能登ボランティアの活動から1年半を迎え、活動を風化させず多くの人に知ってもらうことを目的として開催。
- ⑤第1部では「能登ボランティア活動の報告」を行い、第2部では「ボランティアのハードルを下げるには」などグループ毎で異なるテーマをグループディスカッションし、発表会を実施。他大学の学生や地域の方々、ボランティア先で出会った方など、約60名が参加した。参加者からは「実際に困っている人がいることを身近に感じ、自分や家族の命について考えるきっかけになった」「被災地に関する聞いた話やボランティアについて周りに話し、"助ける人を増やす"ことは自分にもできる支援だと感じた」などの声が寄せられた。



→学生団体つむつむの活躍はP5「輝く人」でご紹介!

キャリアサポートセンター

大学提携インターンシップ 品・熊両キャンパス実施

- ①夏期休業期間中(5日間以上)
 - ②提携企業・団体
 - ③2・3年生
 - ④「社会人基礎力の向上」、「自己理解」、「業界・企業の理解」を深め、就職活動へスムーズに移行する。
 - ⑤提携先ごとに営業同行や事務作業などの就業体験や、オフィス・店舗見学、社員との交流などを経て、キャリア観を醸成した。
- ※学内ではI・II期に事前事後学修を実施



食品業界体験セミナー

品川キャンパス実施

- ①2025年8月6日
- ②品川キャンパス内9号館3階933教室
- ③1・2・3年生
- ④食品商社の「営業体験」を通じて、社会の仕組みや仕事の役割を楽しく学ぶ機会とする。また、自分の得意なことや適性を知り、将来のキャリアを前向きに考えるきっかけをつくる。
- ⑤チームごとに戦略を立て、利益の最大化を目指すゲームを体験しながら、営業の楽しさや工夫する力を学んだ。



求人紹介フェア

熊谷キャンパス実施

- ①2025年9月30日
- ②熊谷キャンパス1号館3階A教室
- ③各学部4年生対象
- ④進路が未決定の学生が、新たな進路の方向性や応募先を見つける機会とする。
- ⑤学生一人ひとりの就職活動状況や希望条件を丁寧にヒアリングし、それに合った求人票を複数紹介。また、面接などがうまく進まない学生にはキャリア相談を案内し、今後の活動へとつなげた。

立正大学ボランティアセンター 取り組み紹介

夏期休業期間を活用し、多くの学生がボランティア活動や地域社会への貢献に積極的に取り組んでいます。立正大学ボランティアセンターでは、さまざまなプログラムを実施し、学生の自主的な活動を支援しています。昨夏には、東日本大震災から教訓を学ぶスタディツアーや、能登半島地震で被災した地域でのボランティア活動、災害時に活躍できる人材を育成する災害ボランティア養成講座などを実施しました。

また、学生主体の活動も活発に行われています。「チームわくわく」は近隣の障がい児を大学に招き、夏祭りを開催。約70名の子どもたちが参加し、大盛況となりました。「学生団体つむつむ」は『楽しく防災を学ぼう』という企画を実施し、熊谷市内から約30名の親子が参加。ゲームを通じて楽しく防災について学ぶ機会を提供しました。

学生たちはこのような活動を通して自主性を育み、実践を通じて企画力・コミュニケーション力・リーダーシップなど多くの力を身につけています。ボランティア活動は、地域とのつながりを深めるとともに、学生自身の成長にもつながっています。



2025年11月1・2日に大学祭を開催しました！

2025年も橘花祭と星霜祭が開かれ、両キャンパスともに大勢の入場者でにぎわいました。(熊谷キャンパスは1日のみ開催)

第60回 橘花祭(品川キャンパス)



模擬店にモラリすが遊びに来てくれました！



縁日村の射的



応援指導部による演舞披露



当日は橘花祭を案内する懸垂幕・横断幕が掲出されました

第38回 星霜祭(熊谷キャンパス)



星霜祭実行委員会



かわいいキャラクターたちが大集合し、星霜祭を盛り上げてくれました



お笑いライブ後のじゃんけん大会



歴代ポスターを展示したミニ・星霜祭ギャラリー



2025ミス立正・ミスター立正が決定！

11月1日、石橋湛山記念講堂にてミス・ミスターコンテストが開催されました。

エントリーNo.2の三井麻鈴さん、エントリーNo.3の赤井遥一さんがグランプリに輝きました。

コンテスト当日は、自己PR(特技披露)のほか、私服披露も実施。外部サイト「MISCOLLE」を使用したWeb投票、橘花祭実行委員会が運用しているミス・ミスターコンテスト公式Instagramの該当投稿のいいね数、現地で行われた当日投票により、グランプリは三井さん・赤井さん、準グランプリにはエントリーNo.5の長谷川涼さん(法学部3年)、エントリーNo.5の山田龍征さん(文学部4年)に決定しました。

グランプリ受賞者のコメント



エントリーNo.2
三井 麻鈴さん
(社会福祉学部4年)

自分1人の力だけではなし得なかったことであり、さまざまな方からの応援やサポートがあったからこそこの受賞だと思っております。私の挑戦を見守ってくださった方々、運営のみなさま、本当にありがとうございました！



エントリーNo.3
赤井 遥一さん
(文学部3年)

どんな困難にも負けず夢を捨てずにいれば、きっとその夢にたどりつける。今回そう実感しました。改めて運営や応援していただいたみなさまに感謝申し上げます。さらに心の財産を貯めて、また舞台に戻ることを約束します。



エントリーNo.4 心瑠さん(文学部1年) エントリーNo.3 澤 滝心さん(心理学部1年) エントリーNo.1 金井 桃花さん(心理学部2年) エントリーNo.5 長谷川 涼さん(法学部3年) エントリーNo.4 齋藤 聖太さん(経営学部2年) エントリーNo.5 山田 龍征さん(文学部4年) エントリーNo.2 砂川 裕太郎さん(文学部4年) エントリーNo.1 稲葉 連音さん(経営学部1年)

キラリ モラリスト×エキスパート 輝く人

た だ ゆう き
多田 悠希さん
(経営学部4年)



MOS世界学生大会 日本代表ファイナリストに選出!

経営学部で学ぶ多田さんは、「MOS世界学生大会2025 日本代表選考(Word部門)」で、見事入賞されました。この大会は、日本全国から延べ1万2千人を超える学生が、日本代表の座を目指してエントリーします。今回は、多田さんに学生生活やMOSについてお話を伺いました。

—立正大学を選んだ理由

一般入試で受験しました。大学で学びたかったのは「マーケティング」や「商品開発」だったので、それらが学べる立正大学を選びました。

—経営学部で学ぶ中で、特に印象に残った授業

浦野先生の[消費者行動論]です。グループワークが多く、学生同士で意見を出し合いながら解決策を導き出すのが面白く、印象に残っています。

—MOSとは?

MOS(Microsoft Office Specialist)とは、WordやExcelなどのマイクロソフトアプリケーションのスキルを客観的に評価・証明する国際資格のことです。私はその大会の中でWord部門を受験しました。

—MOS世界学生大会に挑戦しようと思ったきっかけ

授業の一環で受けた試験が満点だったことがきっかけです。受講者に「このような試験がありますが、受けてみませんか」という一斉メールが届き、満点だったし、就職活動にも役立ちそうだし、軽い気持ちで受けました。

—入賞が決まった瞬間の心境

特別な対策はせず、「授業動画を見て課題を提出する」という最低限のことしか行っていなかったのも、まさか一次を通過できるとも、ファイナリストになれるとも思っていませんでした。一次通過を知らせるメールを見たときは詐欺かと思ったほどです(笑)。ファイナリストは20人と僅かだったので、素直にうれしかったです。

—MOSでの経験を 今後どのように 生かしたいか

それまでは自動車免許しか履歴書に書くことができた資格を持っていなかったのも、MOSを取得し、ファイナリストになれたことは「自分の武器になった」と感じています。資格は一度取れば消えませんが、どんな仕事でも必ず生かせると思います。今後も学びを忘れず、成長につなげていきたいです。



—学生生活で大切にしていること

両親と「単位を絶対に落とさない」と約束しました。ただ落とさないだけでなく、その中でも優秀な成績を取ることを信条にしています。また、この大学を選んだ理由でもある「浦野ゼミ」の活動を最優先にしています。

—学生に伝えたいこと

世界大会や日本代表など、自分には縁がないものだと思っていましたが、やってみたらチャンスがありました。この資格に限らず、「自分に自信がほしい」と思う人は、ぜひ資格取得など何かにチャレンジしてみてください!

「災害支援」と「防災活動」を通じて、 “人と記憶と知識を紡ぐ”

学生団体「つむつむ」は、災害発生時の現地ボランティア活動を中心に、能登半島地震の支援報告会や講演会の実施、SNSを通じた情報発信など、日頃から災害への意識を高める活動を幅広く行っています。



—学生団体「つむつむ」の由来と活動のきっかけは

「災害支援」と「防災活動」を通じて、「人と記憶と知識を紡ぐ」ことを活動テーマとし、その「紡ぐ」から、つむつむと名付けました。2024年1月1日に起きた能登半島地震の約4ヶ月後のGWに、災害ボランティアとして訪れた学生3名が中心となり、9月3日につむつむを立ち上げました。2025年で1周年を迎え、現在では、25名(品川20名、熊谷5名)で活動しています。

—実際に能登を訪れた時の様子や、そこでの活動内容を教えてください

初めて訪れた時は、道路はまだ凹凸だらけで、倒壊した家屋も多く、想像以上に復興が進んでいないと感じました。継続的に訪れる中で、道路の整備や公費解体が進むなど変化は見られますが、更地のままの場所も多く、失われたものの大きさを実感します。行く度に、復興とは「新たに築くこと」なのだと考えさせられます。

活動は、家財の運び出しや現地調査(支援を必要とする家庭の状況把握、ボランティア人数や駐車スペース確認など)、輪島塗の洗浄などの文化継承など多岐にわたるものです。



—被災地の方々との交流の中で、印象に残っていることや、今後の活動について

現地の方から「来てくれるだけでうれしい」と声をかけていただいたことが印象に残っています。日常の中で自分を集団の一部として捉えがちなですが、この言葉を通じて「1人の人間としての存在を大切にすること」の意味を改めて感じました。

つむつむとしての活動展開は、これまで私たちが見てきたこと、感じてきたことを多くの方に伝え、能登の方々の思いを紡いでいきたいと思います。



—学生や読者のみなさんへメッセージ

災害は、いつ・どこで・どのような形で起こるかわかりません。避けることはできませんが、いつか来る災害に備えることはできます。自分や大切な人の命、生活を守るために、一人ひとりが災害について関心を持って欲しいです。私たちは、これまでの震災から多くを学ぶことができます。過去の災害を“過去”で終わらせないために、防災や復興について多くの人に知ってもらいたいです。



学生団体「つむつむ」



学部あれこれ

立正大学各学部から届いたレポートです！

文学部

考古学専攻生が「たたら製鉄」復元実験に参加！

文学部史学科の横山巧さん(3年)ら考古学を専攻する学生3名が、2025年6月21日から22日にかけて福島市の立子山で実施された古代製鉄技術の復元実験に参加しました。この実験は、奈良時代に用いられていた竪形炉を復元し、砂鉄と木炭から鉄を生産する日本古来の「たたら製鉄」の再現を目指すもので、2013年から続く11回目の挑戦となります。この取り組みは朝日新聞(6月28日付福島版朝刊および7月6日付デジタル版)でも取り上げられるなど、大きな注目を集めています。

実験は、元福島県文化センター調査員の吉田秀孝氏(よし ひでゆき)が中心となり、全国から集まった研究者や学生ら約80名が参加して行われました。竪形炉は高さ約2メートルの煙突のような構造で、上から砂鉄と木炭を交互に投入し、炉内に「たたら」(たたら)で空気を送り込んで高温にし、砂鉄を還元して鉄を取り出す仕組みです。

製鉄の際には「ノロ」と呼ばれる溶岩状の不純物が炉外へ排出されることが不可欠で、2024年、初めて少量のノロの流出に成功していました。横山さんたちも、たたらを踏んで送風したり、炉内を観察したりと、重要な作業に携わりました。

今回の実験では、砂鉄に含まれるチタンの除去方法を改良した結果、想定通りにノロが複数回流出しました。しかし、十分な量の鉄を採取するには至りませんでした。横山さんは「文献だけでは分からない、古代の技術者たちの知恵と工夫を、実際の作業を通じて学ぶことができました。同時に古代の技術を再現することの難しさも実感しました」と語ります。成功と失敗が交錯する研究最先端の現場での体験は、座学だけでは得られない貴重な学びとなり、今後の研究活動の大きな糧となることでしょう。



製鉄炉(左)とたたらを踏む横山さん

仏教学部

令和7年度仏教文化公開講座を開催しました

仏教学部では、仏教の思想や歴史、文化などの世界を広く社会に伝達する趣旨のもと、毎年「仏教文化公開講座」を開催しています。令和7年度は、「アジアの文化遺産—『かたちあるもの』の継承をめぐる—」を総合テーマとして、10月11日、石橋湛山記念講堂にて開催しました。

第1部では、日蓮聖人御会式法要を営みました。第2部の基調講演では、比較建築史や文化財建造物の保存修復において多くの業績を挙げられている中川武先生(日本国政府アンコール遺跡救済チーム(JSA)団長、早稲田大学名誉教授、博物館明治村館長)に、「自然と歴史との調和を求めたアンコール遺跡の挑戦」という演題でお話いただきました。その後のパネルディスカッションでは、「文化遺産と地域社会—『かたちあるもの』を受け継ぐために—」をテーマに、中川先生に加えて、東南アジアや南アジア、および日本国内における建築史や町並み保存・復興に従事されている佐藤桂先生(武蔵野大学工学部准教授)、綿密な現地調査を通して南インドの仏教美術史を研究されている袋井由布子先生(中村元東方研究所専任研究員)、そして、東南アジア美術史を専門とする久保真紀子本学仏教学部准教授も交えて、それぞれの現地調査の成果を報告しました。さらに、文化遺産とそれを取り巻く現地の地域社会に対して研究者の立場からどのように関与していくか、意見交換を行いました。

世界情勢が大きく変化する現代社会では、文化遺産をめぐる国際協力の目的や意義、およびその方法が問い直されています。今回の公開講座は、国や地域を

越えた多文化協働の在り方について改めて考える機会となりました。



公開講座の様子

データサイエンス学部

FPT大学と連携した新規ベトナム研修がスタート

データサイエンス学部では、2026年度春からベトナム中部の都市ダナンで新たな海外研修を開始します。本研修は、学生が国際的な視野を広げ、データサイエンスの学びをグローバル社会で生かす力を培うことを目的としています。

研修先のFPT大学は、ベトナムを代表するIT企業・FPTグループが設立した大学で、国内に5カ所のキャンパスを有しています。FPTはソフトウェア開発やAIなどの分野で世界的に事業を展開しており、デジタル変革を推進してきました。そうした教育機関で学ぶ本研修は、データサイエンスとIT産業のつながりを体感できる点が大きな魅力です。

プログラムは2週間。文化・音楽・歴史・ビジネス・社会などをテーマにした英語授業や、現地学生(Buddy)との交流を通して、実践的な英語力を養い、異文化理解を深めます。

さらに、データサイエンス学部向けに特別カスタマイズされたITクラスも複数回実施予定です。同世代のIT人材と学ぶ経験は、専門的刺激を受けながら国際的な協働力を高める機会となります。

また、地元企業の訪問も予定されており、成長著しいベトナム経済の現場に触れることで、データサイエンスがビジネスや社会課題にどう生かされているかを学びます。研修先のダナンは自然と都市が調和した住みやすい街で、ホイアンやフエといった世界遺産にも近く、学びと生活の両面で魅力ある滞在先です。

語学や文化体験に加え、ITの最前線を担うFPT大学で学ぶことで、「データを通じて社会貢献」という学部理念を実践する機会となる本研修。学生が国際感覚と実践力を磨き、未来へと生かす新たな学びの場が、もうすぐ開かれます。



ベトナム文化研修の様子



語学研修の様子



訪問先IT企業



RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

立正大学付属立正中学校・高等学校

第78回 立正祭 盛大に開催される

2025年9月28日・29日、立正祭が開催されました。2025年のテーマは「桜梅桃李(おうばいとり)」に決定しました。それぞれの花が美しく咲くように、立正生一人ひとりの個性や持ち味を十分に発揮させて、素晴らしい立正祭をみんなで創り上げたいという想いから名付けられました。

中学生は全学年、劇の発表がありました。1年は「白虎隊」、2年は「美女と野獣」、3年は「HIGH SCHOOL MUSICAL」となりました。生徒たち自身による脚本作成、キャスト決定など、練習から本番までとても盛り上がっていました。

高校生はクラス単位での模擬店が多く出店されました。緑日、ジェットコースター、メイド喫茶、脱出ゲーム、射的など盛りだくさんの出し物で、多くのお客様からも大好評でした。

部活動では恒例のチアリーディング部の演技発表が大人気でした。空手道部の演武発表、体操部のパフォーマンスショー、吹奏楽部の演奏発表、茶道部のお茶会なども多くのお客様を集めていました。

またアリーナと行学ホールでは、ダンスライブ、のど自慢カラオケコンテスト、書道ガールズによるパフォーマンス、男装・女装コンテスト、ゴリマッチョ大会など、多くの企画で好評を博していました。

師親会では恒例のカレーとバザーの出店に多くのお客様が訪れました。師親会カルチャー教室ではパンフラワーと水彩画の作品展示もありました。

立正広場にはクレープ・ケバブ・牛丼などのキッチンカーも登場して、長蛇の列ができるほどの賑わいを見せていました。

総じて天候にも恵まれ、総勢延べ12,000人以上のお客様が来校されました。立正祭委員が中心となって、夏休み前から準備した成果が、大きな「花」を咲かせました。



先生の素顔

たむら みつき
田村 光貴先生(国語科)



立正中学・高校に奉職して4年目になります。現在、中学1年生の担任と体操部の顧問を務めています。

また、小学生のときから読書が好きで、中高時代に触れた文学作品に引かれていきました。特に夏目漱石の作品の文章の美しさと心情表現の奥深さに感動し、さらに本のとりこになりました。それが国語教師になるきっかけだったと言えるでしょう。

生徒たちには、国語の授業を通して、自分の感じたこと・思ったことを相手にわかりやすく伝える力を身につけてほしいと思っています。世の中がどんなに発達しても、人と人との心のコミュニケーションこそが人間社会の根底にあると考えています。

田村先生の経歴紹介

- ・高校から器械体操を始め、大学まで継続
- ・6種目すべてに取り組み、特に「あん馬」を得意とする
- ・川崎市民体操競技大会で入賞経験あり
- ・失敗を分析し、上達を重ねる体操競技の魅力を探究



RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

立正大学 淞南高等学校

創部2年で島根の頂点へ！



2025年11月9日、島根県内で開催された令和7年度島根県高等学校バスケットボール選手権大会 兼 ウインターカップ2025島根県予選会で、本校バスケットボール部が見事初優勝を果たしました。創部2年目のチームが成し遂げた快挙です。

決勝戦では、出雲商業高校との激闘の末、70-58で勝利を収め、ウインターカップ2025本大会への出場権を手に入れました。

選手たちは、日々の練習の成果を存分に発揮し見事なチームワークで試合を制しました。今後の活躍にも期待が高まります。

みなさまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。



【結果】

決勝	vs出雲商業	70-58
準決勝	vs松江東	84-48
準々決勝	vs大社	89-54
初戦	vs松江南	78-55

【ベスト5】

村上 莉子
MAM SAYE SAMB

新任教員紹介

つねまつ とおる
常松 徹先生
(単位制通信課程社会科・女子バスケットボール部)



41年間の公立高校教員の職を辞し、2025年4月より、この淞南高校に着任しました常松と申します。公立学校教員の間、長年にわたり女子バスケットボール部の指導に携わってきましたが、本校が昨年度に部を創設し、さらに今年は留学生を招聘するなど、部の強化に一層力をいれることを伺い、微力ながらもそのお手伝いをしたいと強く希望し、着任いたしました。ヘッドコーチの松近先生を補佐し、部の目標である「日本一」を実現すべく、スタッフ、選手が一丸となって努力をしております。どうかよろしくお願いいたします。

▼立正大淞南の情報をチェック



「大学が取り組んでいる危機管理について」

立正大学では、日頃より学生および教職員の生命・身体の安全を第一に考え、危機管理に取り組んでいます。学校法人立正大学学園の中長期計画には、アクションプラン「防災力の向上と地元地域との連携」が謳われており、これを受けて立正大学では、危機管理の一環として、大学の防災力を向上させ、キャンパスの所在する自治体や地元自治会などとの関わりを深め、学内の防災リテラシーを向上させるとともに、地域が抱える防災に関する諸問題にコミットする取り組みを進めてまいりました。

大学における防災力向上の具体的な取り組みとしては、毎年実施している事務職員を対象にした大地震発生を想定した訓練が挙げられます。例えば、自衛消防隊の役割を果たすための応急救護（人形を用いた胸骨圧迫）訓練やVRシミュレータやトランシーバーを用いた初動対応訓練などを実施いたしました。他にも大学全体の訓練として、災害対応トレーニングを品川キャンパス・熊谷キャンパス合同で実施し、各種対応マニュアルも改正整備しています。

また、キャンパスの所在する自治体とは、防災に関する協定内容の課題整理を行い、包括連携協定に大規模地震を想定した防災を加えることも協議しておりますが、それと並行して防災意識や防災力向上を目的とした学生・地域住民対象の「防災ワークショップ」も複数回行いました。

日常的な防災対策としては、災害時に限らず、緊急時に活用できる防災設備を、学内各所に設置しています。例えば、AED（自動体外式除細動器）や、災害時などの緊急の際に在庫商品を活用できる災害対策用自動販売機といった設備です。その他に、災害時に迅速かつ適切な対応を図るための備蓄品も確保しています。

このように、立正大学では日頃の防災対策から大災害までを想定して危機管理に取り組んでおりますが、各種取り組みを把握しづらいということが課題でした。そこで、大学ホームページに危機管理のページを新たに設け、本学の危機管理体制・連絡方法・防災設備といった情報を集約し、学生や教職員、そして保護者のみなさまにも可視化できるようにいたしました。これにより、学生や教職員のみなならず、本学と離れたところにお住まいの保護者のみなさまにもご安心いただけることと思います。

防災や危機管理は、これでおしまいということはありません。学生さんをお預かりする大学として、常に危機意識をもって安心安全なキャンパス作りに尽力してまいります。



災害対策用自動販売機



人形を用いた胸骨圧迫訓練



AEDおしらせ



AED

教職・資格教育センター

ホームカミングデー 教職の集い紹介

昨年度に引き続き、今年度も11月1日に品川キャンパスで校友会主催の「ホームカミングデー」が開催され、その中に教職関係者の部屋が設けられました。「ホームカミングデー」では、毎年教職に就かれているみなさま、既に教職を退かれたみなさまにもお集まりいただき、現役の学生とも懇談してもらうイベントを行っています。

今年度の「教職の集い」では、本の代わりに人が「本」となり、自分の経験や思いを語る「生きている図書館」を中心に懇親会を行いました。本の内容は「あなたを構成する3つの要素」をテーマに、一人ひとりが語り合いました。また、屋久島おおぞら高等学校でのキャリア教育ワークショップに参加した体験者の発表や主催者の方から通信制高校の特徴などたくさんのお話を聞くことができました。

そして、多くの方々の多様な経験や価値観に触れたことで、自分自身の「生き方」について考えるきっかけになるなど、大変素晴らしい機会を持つことができました。

また、「教職の集い」は弊学サークル「モギ授業の会」のメンバーが中心となって実施しています。モギ授業の会は教職履修者を中心に活動しており、教員としての能力を磨く活動を行っています。直近の活動では、教育実習を終えた4年生を招き実習の体験について語る教育実習報告会を企画し、研究授業の指導案を共有して会員同士学びを深めました。加えてモギ授業の会は各種イベントにて教職課程の宣伝などの活動をしており、橘花祭やオープンキャンパス、ボランティアなどの場でも活躍しています。ホームカミングデーでの取り組みもこういったサークル活動の一環として行われました。

「モギ授業の会」は在学生だけではなく、OB・OGや先生方にご協力いただいて勉強会などの自己研鑽を行っています。現在モギ授業の会に参加していない教職履修者の在学生や、教育業界に縁があるOB・OGも、ぜひサークル「モギ授業の会」、橘花祭企画「教職の集い」にご参加ください。





Come and join us!

異文化交流体験が未来を切り拓く！

国際交流センターでは、グローバル化する社会で活躍できる人材の育成を目指し、国内外における留学・研修プログラムやキャンパス内での国際交流、語学力向上支援を実施しています。



1

キャンパス内での国際交流

ー熊谷キャンパスにおけるピア・サポートの取り組みー
～Rismate:留学生とともに学び、支え合う仲間たち～

多文化交流を通じて成長する学生チーム／

熊谷キャンパスのRismateと、品川キャンパスのRIEAは、本学で学ぶ留学生の生活サポートをする学生チームです。今回は、熊谷キャンパスのRismateの活動を紹介しします。

Rismateは、2022年秋に留学生の生活支援や交流促進を目的に結成され、今年で4年目を迎えました。現在は国内学生サポーター7名、留学生11名が参加し、週1回の交流活動やガイダンスサポート、熊谷市内・キャンパスツアー、異文化交流イベントなどを行っています。

2025年度第1期に、留学生と国内学生がともに日本文化や歴史に触れる「鎌倉文化体験ツアー」を、サポーターが中心となって企画・実施しました。鎌倉大仏や小町通りの散策を通して、日本文化の理解を深めるとともに、国境を越えた友情を育みました。

サポーター活動の中でグループリーダーを務める野本茜さん(地球環境科学部3年)は「Rismateの活動は、留学生と交流を図ることで異文化を知るだけでなく、傾聴力や相手を理解する力、リーダーシップなどさまざまな力を身につけることができます!」と話します。

Rismateのメンバーは、活動を通して多文化理解や実践的なコミュニケーション力を養い、卒業後も教育・福祉・公共事業など幅広い分野で活躍しています。今後も、留学生と国内学生がともに成長し合えるキャンパスづくりを目指して活動を続けていきます。

Rismateの活動を通して、さまざまな力が身につけられ成長につながりました!

学生が企画した鎌倉文化体験ツアーで寺社を巡りながら日本文化を体験しました!



の も と あかね
野本 茜さん
(地球環境科学部3年)



謎解きを楽しみながら協力する学生たち笑顔があふれるコミュニケーション研修となりました!

チームビルディング研修で仲間との絆を深めた学生たち達成感と笑顔があふれる集合写真になりました!



2

スマホで留学準備!

国際交流センターのSNSを活用しよう!

国際交流センターでは、公式LINEおよびInstagramを通じて、留学や国際交流に関する情報を発信しています。情報収集をスムーズに進められるよう、各SNSの発信内容をご紹介します。

Instagram 【@rissho_inter】



Instagramでは、各留学・研修先で学生が撮影した写真や動画を中心に発信しています。現地の街並みや文化的な背景なども紹介しており、現地での活動の様子や、その国・地域ならではのグルメ、学生が参加したアクティビティなどを通して、リアルな留学体験を感じることができます。

特に、交換・語学留学中の学生が撮影したVlog風動画では、授業の様子や現地での日常生活が垣間見え、留学を検討している方にとって参考になる内容となっております。

また、国際交流センターが実施するイベント情報も随時発信しており、国際交流フェア(説明会)や学内で実施される語学試験など、学内での国際交流に関する情報に触れることができます。



交換・語学留学中の学生が撮影した動画

LINE 【@373bdpzd】



LINEでは、国際交流センターが実施する各種イベント情報を中心に配信しています。通知機能により重要な情報をタイムリーに受け取ることができ、留学・研修や語学試験の申込に合わせて情報を発信しているため、申込開始や締切を見逃すことなく確認することができます。

トーク画面のメニュータブでは自動チャットによる質問対応やキャンパスごとの新着情報の配信も行っており、最新情報の確認に便利です。また、留学・研修ガイドブックのデジタル版や、国際交流センターのホームページへのアクセスも可能です。

さらに年2回程度、個別チャットによる留学相談を実施しており、国際交流センターの窓口に来なくても留学相談することができます。(※都合により実施されない場合もありますので、ご了承ください。)



LINEトーク画面内の各種メニュー

国際交流センターのSNSは、留学や国際交流に関心のある学生にとって、情報収集の強い味方です。現地のリアルな様子や最新のイベント情報を手軽にチェックできるため、留学準備や情報収集がよりスムーズになります。今後も、学生のみならず、学生のお母さんにとって役立つ情報を積極的に発信してまいりますので、ぜひフォローしてご活用ください。

留学への第一歩は、情報を知ることから始まります。あなたの「行ってみたい!」を、国際交流センターが応援します。

サッカー部

手応えを得た新人戦
リーグ戦ともに来季の躍進を誓う！

2025年4月に開幕した関東大学サッカーリーグ戦は、11月15日をもって全日程が終了しました。最終順位7位(9勝4分9敗)という結果に終わり、掲げていた「関東1部復帰」の目標は来季へ持ち越しとなりました。シーズンを通じて、特に上位チームとの接戦を勝ち切ることができず、勝点を積み上げられなかったことが悔やまれます。しかしながら、選手たちは最後まで全力を尽くし、精一杯戦い抜いたシーズンでもありました。

また、1・2年生を中心に挑んだ関東大学サッカーリーグ新人戦では、予選リーグを1位で突破。準々決勝では関東1部所属の流通経済大学に2対1で勝利し、準決勝へ進出しました。全国大会出場まであと一歩に迫りましたが、準決勝では東海大学に0対4で敗れ、さらに3位決定戦でも産業能率大学に1対1(PK7対8)で惜しくも敗戦。悔しさの残る結果となりました。

一方で、今季は2名のJリーガーを輩出するなど、選手一人ひとりの努力とチーム全体の支え合いが確かな成果を生み出しました。これは日頃より温かいご支援・ご声援をくださるみなさまのお力添えがあってこそと、心より感謝申し上げます。

今シーズンの悔しさを糧に、オフシーズンに鍛錬を重ね、来季こそ「関東1部復帰」を果たすべく、部員一同覚悟をもって挑んでまいります。引き続き本学サッカー部へのご声援をよろしくお願い申し上げます。



左：Jリーグに内定したDFの田端(データサイエンス学部4年)
右：新人戦チーム集合写真

Jリーグ内定者

たばたりゅうせい

田端琉聖(データサイエンス学部4年・DF) 栃木SC内定(J3)

なかむらゆうと

中村優斗(データサイエンス学部4年・MF) 藤枝MYFC内定(J2)

リーグ戦 速報は
コチラから
ご確認ください。



サッカー部の
情報をチェック！



ラグビー部男子

プロクラブと連携し
学生頂点を目指す

学校とチームの誇りを胸に校歌を歌う立正フィフティーン

昨年春のオープン戦では、ランニングスピードの中でスムーズなパスができていない課題が見られました。これを踏まえ、夏の菅平合宿ではアタックスキルの精度向上とディフェンス強化に重点を置いて取り組みました。オフェンス面では得点につなげることができず、練習試合での勝利には届きませんでしたが、埼玉パナソニックワイルドナイツ(以下ワイルドナイツ)との包括連携協定を通じて、日々着実な成長を実感しています。

昨年7月からは、ワイルドナイツで活躍し、6月に現役を引退した梶伊織氏がコーチに就任。ワイルドナイツのディフェンス理論や戦術を直接指導いただき、大学選手権出場という目標に向けてチーム一丸となって強化を進めています。

また、8月には宮川晴登(データサイエンス学部3年)がワイルドナイツの練習試合に派遣され、ニュージーランドのクラブチームを相手にトライを挙げるなど、貴重な経験を積むことができました。

さらに、ワイルドナイツ主催のアカデミーには、大橋武生(同2年)、舩尾緑(同2年)、渡邊大樹(同2年)、テヴィタ・アフエアキ(同2年)、ヴェア・シオシウア(同1年)、オーソ



トライを決め第3節の
最も印象に残った選手(MIP)に選ばれた佐藤陽翔(データサイエンス学部2年)

ン・アーネスト(同1年)が参加。プロクラブ選手との合同練習を通じて大きな刺激を受け、有意義な時間を過ごしました。

一方、ラグビー部OBのユアン・ウィルソン(2024年度卒)は、ワイルドナイツのルーキーイヤーにしてシーズン最終戦(3位決定戦)に出場するなど、現役部員にとっても励みとなるうれしいニュースがありました。

リーグ戦
最終結果は
コチラ！



ラグビー部女子

最後
一戦

ラグビー部女子は、女子15人制関東大会に出場し、厳しい戦いの中で着実な成長を遂げました。上級生がリーダーシップを発揮し、下級生も積極的にチャレンジすることで、チーム全体の底上げが図られました。試合ごとに課題を明確にし、練習に反映させることで、個々のスキルアップとチームワークの強化を実現しています。惜しくも上位進出はなりませんでした。選手一人ひとりが自分の役割を全うし、次につながる貴重な経験を積むことができました。

また、7人制ラグビーでは、国内サーキットおよび各種大会に本学学生を中心としたチームで参戦しました。目標としていた8位入賞にはあと一歩届きませんでしたが、最後まで諦めずに戦い抜き、来年度の大会出場権をしっかりと守り抜きました。スピードと判断力が求められる7人制の舞台で、学生たちは果敢に挑戦し、個々の成長とともにチームの結束力も高まりました。

普段の活動では、技術や体力の向上はもちろん、メンタル面の強化やラグビーを通じた人間的成長にも力を入れています。週5日の練習や戦術ミーティング、ビデオ分析など



クラブ等情報

硬式野球部

悲願の2部優勝・1部復帰

立正大学硬式野球部は2025年秋季リーグ戦において、9勝3敗・勝ち点4の成績で2部優勝を果たしました。さらに、2025年11月10日・11日に神宮球場で行われた1部・2部入替戦では、駒澤大学に2連勝し、念願の1部復帰を成し遂げました。

このような結果で2025年シーズンを終えることができましたのは、日頃より温かいご声援をお寄せいただいているみなさまのおかげです。この場をお借りして、部員・スタッフ一同、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今季(2025年)はシーズンゲームを勝ち切る粘り強さを発揮し、「1部復帰」を明確な目標に掲げて戦い抜いたシーズンでした。2部リーグを優勝で制し、入替戦も初戦の接戦をものにするなど、打線と投手陣がバランスよく機能し、勝負所で力を発揮できたことが大きな原動力となりました。

私たちはすでに、2026年シーズンでは「1部残留」ではなく、1部優勝・日本1を目標に掲げ、日々の練習に励んでいます。今後とも変わらぬご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

個人表彰について

今季(2025年)、以下の5名がベストナインに選出されました。

しい げい ご
椎木 卿五

(データサイエンス学部1年・捕手)

1年生春から正捕手として出場。今季(2025年)は7番ながら、持ち前のパワーと勝負強さでサヨナラ本塁打を含む3本塁打を放ち、チームに勢いをもたらしました。

ふく た あつ し
福田 敦士

(データサイエンス学部1年・一塁手)

春に続き、1年生で秋も2度目のベストナイン選出。思い切りのよいバットでチームに流れを呼び込み、優勝に大きく貢献しました。

み よ し げん き
三好 元気

(データサイエンス学部2年・外野手)

2024年秋、2025年春に続き3季連続の受賞。不動の4番として打線を牽引し、ここぞの場面で必ず結果を残す勝負強さで優勝に貢献しました。

う え だ こう せい
上田 耕晟

(データサイエンス学部2年・外野手)

初の受賞。不動のリードオフマンとして打撃・走塁の両面でチームに流れを作り、勝利に貢献しました。

かしむら けい と
櫻村 佳歩

(データサイエンス学部4年・投手)

今季(2025年)は「四冠」を達成(ベストナイン〈投手〉、最高殊勲選手、最優秀投手、最優秀防御率)。2023年東都春季リーグ以来の快挙となります。5勝、防御率1.46、奪三振31と、まさにリーグNo.1の成績を残しました。春は怪我に苦しみましたが、秋はエースとして大車輪の活躍を見せ、優勝へ導く立役者となりました。



四冠を達成した櫻村



まで諦めずに 一戦を全力で戦う

を通じて、選手同士のコミュニケーションも活発に行われています。

地域のラグビー教室や小学生への指導にも積極的に参加し、ラグビーの魅力を広める社会貢献活動に取り組んでいます。

一方、本学卒業生7名が、2025年イングランドで開催された女子ラグビーワールドカップにおいて、日本代表として出場するという快挙を成し遂げました。卒業生たちは、それぞれの強みを発揮し、世界の強豪国を相手に堂々と戦い抜きました。彼女たちの活躍は、現役部員にとっても大きな刺激となり、立正大学ラグビー部女子の伝統と誇りを改めて感じさせてくれるものでした。

今後もラグビー部女子は、「一戦一戦を全力で戦う」「互いをリスペクトし、助け合うチーム作り」を目標に、部員一同常に高みを目指して努力を続けてまいります。引き続き、みなさまの温かいご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。



陸上競技部 駅伝部門

第102回東京箱根間往復 大学駅伝競走予選会出場報告

2025年10月18日に、第102回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会が開催されました。駅伝部として1年の中で1番大事にしている大会であり、1年間この日のために練習をしてきました。14名エントリーして、当日出走したのは以下の12名です。(そのうち補欠2名)

【出走メンバー】

あだち はる き 足立 華紀 (データサイエンス学部4年) こばやし じゅん や 小林 潤弥 (同4年) やまぐち りん やまぐち りん 山口 凛 (同4年) かねもと と も や 金元 智哉 (同3年) はしもと し ょ う た はしもと し ょ う た 橋本 将汰 (同3年) うつのみ や こう き うつのみ や こう き 宇都宮 光希 (同2年) おちあい み こ と おちあい み こ と 落合 尊翔 (同2年) ちねん ゆ う と 知念 優斗 (同2年) ジェレミア・カマウ (同1年) たかた ゆ う が たかた ゆ う が 高田 雄河 (同1年) つがね か い と つがね か い と 津金 海斗 (同1年) わだ の ぞ み わだ の ぞ み 和 多 希 巳 (同1年) 以上12名

【補欠】

あいかわ さ く や 相川 朔也 (同1年) もり ひ び き 森 豊 輝 (同1年)

各学年からエントリー選手が入り、予選会初エントリーの選手、ハーフマラソン自体が初めての選手もありそれぞれ緊張や不安もあったかと思いますが、上級生は2024年の予選会から1年間、1年生は入学して半年間、仲間とともに日々の練習や長期合宿を乗り越え、スタート地点に立ちました。

2024年は9:35スタートでしたが、気温の上昇を考慮し、2025年は8:30スタートになりました。当日は早朝から涼しくコンディションもよく感じられていましたが、スタートして30分経った9時頃に日差しが出てきて、2024年同様気温が高い中でのレースとなりました。

レースとしては、橋本(3)、ジェレミア(1)はフリーベースで走り、その他の選手は集団走でレースを進めていきました。

予選会の結果は、残念ながら2024年同様総合成績32位で終了しました。

敗因は、集団走で進んでいたメンバーの後半集団走の崩れによって、立川昭和記念公園に入ってから残り5kmでペース減速があったこと、ジェレミアの途中棄権、暑さに弱かったことで、悔しさが残る予選会でした。その中で橋本はあと一歩で学連選抜に入る成績で走り切ることができました。それぞれ反省や課題を受け止め、覚悟をもって、選手・スタッフ全員で2026年の予選会に向け、必死で努力していきます。



＼ 学生生活を充実させよう！／ CIRCLE 2025

立正大学サークル情報

本学には100以上の
さまざまな課外活動団体が活動しています。
今回は、「柔道部」を紹介します。

CIRCLE INFO

体育会柔道部

「1部昇格」を目指し、個性を尊重し、技術と精神力を高め合う

今回は、2025年9月に開催された、全日本学生柔道体重別選手権大会で見事ベスト16入りを果たし、主将を務める法学部4年の菊池さんにお話を伺いました。

体育会柔道部は、法学部や仏教学部を中心に24名の部員が所属し、週4日(月・水・金・土)稽古を行っています。未経験者の学生も在籍し、それぞれが自分のペースで技を磨きながら、東京学生柔道2部リーグで「1部昇格」を目標に日々練習に励んでいます。

部員たちは和やかな中にも、「勝ちたい」という気持ちを強く持った学生が、互いに刺激合っています。部の強みは、それぞれのスタイルを尊重し合えることと、質問や研究の時間を求めれば先生が柔軟に対応してくれ、一人ひとりが課題に向き合いながら成長できる環境が整っていることです。

練習では、一本一本の稽古を集中して行うことを大切にし、乱取り(技を掛け合う自由練習)ではタイミングや仕掛け方を工夫するなど、技術だけでなく考える力も鍛えることを大切にしています。また、異なる学部や

経験の差を持つ仲間が、同じ目標に向かうために、欠席連絡や報告・相談など、基本的な「報・連・相」を徹底し、チームとしての一体感を持って取り組んでいます。

柔道は、一瞬で勝負が決まるダイナミックさがあり、ルールもシンプルで初めて観る人でも楽しめる競技であること。誰が勝つかわからない緊張感が魅力です。

「私自身、8歳から続けてきた柔道人生を、高校時代で終わりにしようと考えていたため、大学入学時には続けるかどうか悩みました。しかし、もう一度頑張ろうと思い、大学4年目にして初めて全国の舞台に立てたのはうれしかったです。強豪相手に自分の力を試し、ベスト16まで残れたことは自信になりました。そして、あと一歩届かなかった悔しさをバネに日々練習に励んでいます。

この柔道部には、経験者、大学で始めた学生もいます。大学で何かに挑戦したい、本気で強くなりたいと思っている学生、柔道部で待っています!」



柔道着を着ているのが菊池さん



全日本学生柔道体重別選手権大会の様子

学生安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス(e-革新)」を導入しています。

パソコンでの登録やその他詳細については、
『ポータルサイト>Myツール>キャビネット>3. 学生生活支援>
6. 安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角)
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字)
パスワード:生年月日の下4ケタ(月日) (例)4月1日 → 0401



お問い合わせ 品川学生生活課 電話:03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 電話:048-536-6012

体育会硬式野球部 林燦選手

読売巨人軍より育成ドラフト2位指名

2025年10月23日に開催された、ドラフト会議において本学硬式野球部所属の林燦選手(データサイエンス学部4年)が読売巨人軍より育成ドラフト2位で指名されました。

【林選手 プロフィール】

・ポジション 投手
・生年月日 2003年4月22日
・身長/体重 183cm/83kg
・出身校 広陵高校



大学公式Instagram更新中!!

大学公式Instagramでは、キャンパス内外でのさまざまなイベント、学生の活躍、学内の最新情報をお届けしています。また、学生のインタビュー、学部紹介、クラブ活動の様子なども掲載中です。みなさまの日常に役立つ情報や楽しいコンテンツを発信していきますので、ぜひフォローして最新の情報をチェックしてください!



@RISSHO_UNIVERSITY

学園新聞Web版・公式サイト・SNSはこちらから



学園新聞
Web版



立正大学マガジン

検索



公式サイト



立正大学

検索



公式Facebook

セミナーやイベント情報、クラブ活動の様子などをSNSで配信!
ぜひフォローしてチェックしてみてください。



公式X
(旧Twitter)



モラリすX
(旧Twitter)

本紙へのご感想を お待ちしております!

立正大学学園新聞アンケート

立正大学学園新聞編集委員会では、読者のみなさんの声をもとに、よりよい紙面づくりをしていきたいと考えております。今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。



アンケート